

# ふるさと研究ニュース

2022 年秋号第 26 号  
文化財保護課  
ふるさと研究グループ



「ふるさと研究活動」は、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化等に関する資料を収集、調査・研究をして、その成果を展示・講座等の事業を通じて、広く市民に伝えていくことを目的としています。この「ふるさと研究ニュース」は、市民のみなさんに、所沢のことをもっと知っていただける機会や情報をおとどけする情報紙です。所沢をもっと知りたい方、ぜひご活用ください。

## ふるさと研究講座 探求編

### クローズアップ所沢「ふるさと所沢のウラを知る」

ふるさと研究講座“探求編”では通史から一步踏み出し、一つのテーマを題材として掘り下げて学ぶ、全 4 回の連続講座です。今回のテーマは、**ウラ**。

日頃、私たちの見ている側ではない方向から見た所沢の姿を探ります。所沢の新たな魅力に出会ってみませんか。

	開催日時	タイトル	講師
第 1 回	11 月 2 日(水) 午後 2 時～4 時	頭のウエ ー所沢の空 気象データからみる過去と未来ー	山城 幸浩氏 (熊谷地方気象台調査官)
第 2 回	11 月 13 日(日) 午後 2 時～4 時	所沢のソト ー所沢と八王子 糸繭の商いが結んだ縁ー	宮本 八恵子氏 (所沢市文化財保護委員)
第 3 回	11 月 20 日(日) 午後 2 時～4 時	地面のシタ ー地層地質からみた所沢 地盤と地震ー	八戸 昭一氏 (埼玉県環境科学国際 センター研究推進室室長)
第 4 回	11 月 27 日(日) 午後 2 時～4 時	捨てたアト ープラスチックゴミのゆくえー	所沢市資源循環 推進課職員

会場：生涯学習推進センター(学習室201) 定員：先着50名 ※4回出席できる方

申込：10月4日(火) 午前9時から電話で受付 (午前9時から午後5時まで) ※ 土日・祝日休

申込先：文化財保護課 04-2991-0308 参加費：無料

## ふるさと研究体験学習会

### 狭山丘陵 ちょっと地層を見て歩き

日時：令和4年12月3日(土) 午前9時15分～午後12時30分

(雨天の場合は、12月10日(土)に延期) ※傾斜のある所を歩きます

集合：西武球場前駅 解散：下山口駅(総行程約7km)

講師：久津間 文隆氏(大東文化大学)

定員：先着20名(市内在住・在学・在勤の方) ※小学生以上

申込：11月1日(火) 午前9時から電話で受付 (午前9時から午後5時まで) ※土日・祝日休

申込先：文化財保護課 04-2991-0308 参加費：無料



# 小茂田青樹写生画・山路眞護油彩画展

会期：令和4年11月5日(土)～11月20日(日) 午前9時～午後5時

会場：生涯学習推進センター 3階 企画展示室 ※月曜休み(14日は開催)

※小茂田青樹写生画のうち「狭山金乗院」は、11月14日(月)～11月20日(日)のみ展示

おもだ  
小茂田  
せいじゆ  
青樹

明治24年(1891)～昭和8年(1933)。日本画家。川越町(現川越市)生まれ。自信作が「再興第6回院展」に落選し失意の中、金乗院(所沢市山口観音)に寄寓し、再起を目指した。この時期は狭山時代と呼ばれ、後の作風に強い影響をおよぼした。金乗院の当時の姿などを描いた写生画が、令和4年5月に所沢市指定有形文化財に指定された。

やまし  
山路  
しんご  
眞護

明治33年(1900)～昭和44年(1969)。洋画家。所沢町生まれ。昭和4年第一美術展に入選、昭和5年からフランスに留学、サロン・ドートンヌに入選、昭和7年に帰国後、第19回二科展に入選。純国産機「神風号」のデザインと塗装を担当。全日空の依頼により、同社の(ダ・ビンチの回転翼をモチーフにした)マークをデザインした。

## 尾張の殿様も所沢に来た!?

〈ふるさと研究市民トピックvol.26〉

寛永10年(1633)2月13日、三代将軍徳川家光は、江戸から五里四方を将軍家の鷹場、その外側を尾張・紀伊・水戸の御三家の鷹場としました。尾張家の鷹場は概ね江戸の北西側に位置していました。

尾張徳川家の初代藩主徳川義直(よしなお)は、鷹場を下賜された後、所沢で鷹狩を行っています。

尾州家の藩主の行動を記録した「尾張藩主事蹟録抄」(原本蓬左文庫)には、以下のような記載があります。

(\*)1 (抜粋)

寛永十年二月十八日 江戸殿様今日御鷹野野老沢江御泊り御鷹野被為成 留書方状留  
寛永十四年十月廿一日 殿様今日野老沢江為御鷹野被為成 留書方状留  
寛永十四年十一月六日 殿様野老沢より御帰府 同上  
寛永十四年十一月七日 殿様野老沢御鷹場より御帰府に付今日御登城 同上  
寛永十六年十月廿五日 殿様今日野老沢江御泊御鷹野に御越右は上使松平伊豆守ヲ以御暇被進  
御鷹二居先達而被進之 寛永覚書  
同 年十月廿九日 殿様今日野老沢御鷹場より御帰府 寛永覚書  
閏 十一月五日 殿様又々御鷹場江被為成 御留書  
閏 十一月十四日 殿様今日野老沢御鷹場より御帰府 寛永覚書 (野老沢=所沢)

さらに、寛永17年の2月、10月にも同様に滞在していると記されています。

鷹狩は、普通10日から半月くらいにわたって行われたため、鷹場内には宿泊の施設(御鷹場御殿)が設けられていました。拝領した寛永10年当初は、入間郡扇町屋村(現入間市)に御殿を建て、やがて所沢村に移転し、寛永18年(1641)に前沢村(現東久留米市)に御殿(前沢御殿)を移しました。(\*2)

惜しいことに、所沢での宿泊箇所の記録がないのですが、明暦元年12月11日に野老沢東光寺(薬王寺)の住職が、前沢御殿に御鷹場御機嫌伺のため出仕していることや、当時野老沢で親藩である尾張大納言(義直)が宿泊できた所は、現在の薬王寺であったかと推察されます。

寛永21年(1644)3月3日の鷹狩には、周辺の尾張家鷹場の51ヶ村から人足が動員され、その数は1166人に及んだことが記録されており、盛大に行われたことが想像されます。(\*3)

なお、寛永17年10月、光友(のちの2代目藩主・中納言)が武蔵野に鷹狩の際、北野天神社に参拝し、松を献栽したとされ、「中納言松」と伝えられていた松があったとのこと。(\*4)

〈参考資料〉\*1…『所沢市史』 所沢市史編纂委員会/編 所沢市 1957年

\*2…『東久留米の江戸時代』 東久留米市教育委員会/編 東久留米市 2005年

\*3…「平塚家文書」寛永21年3月3日 前沢御鷹野割留帳「御殿御觸横人足出覺」  
(『所沢市史 近世史料I』 所沢市史編さん委員会/編 所沢市 1979年)

\*4…『所沢市史 社寺』 所沢市史編さん委員会/編 所沢市 1984年)

※野老沢への鷹狩(一部)については、『名古屋叢書三編2』『名古屋叢書三編3』(名古屋市蓬左文庫/編 名古屋市教育委員会)にも掲載されています。

所沢市教育委員会 文化財保護課 ふるさと研究グループ

所沢市並木6丁目4-1 Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.lg.jp